

2026年の「穀雨」は4月20日です。

穀雨とは、穀物の成長を助ける雨のことで、

『暦便覧』には「春雨降りて百穀を生化すればなり」と記されています。

春分や清明の時は晴れたり曇ったり、温かかったり寒かったりと春の変化が多い気候でしたが、この時期は、変わりやすかった春の天気安定し、日差しが強くなり始める季節の変わり目です。

穀雨の頃になると気候が安定してくるため、種まきに最適な季節になります。

昔から農作業のスタートは穀雨を目安にされてきました。

植物にとっては成長を促す恵みの雨が降る大切な時期と言えます。

田畑を潤して農作物の新芽を盛んに成長させます。

お茶の世界では「穀雨の頃の新茶が最高級」とされることもあるそうです。

春の最後を締めくくる節気であり、暦の上では夏へのカウントダウンが始まります。

「八十八夜の忘れ霜（わすれしも）」という言葉があります。

穀雨の頃にある雑節「八十八夜」は田植えやお茶摘みによい日ですが、

時々とても寒くなり霜（しも）がおりることがあります。

霜がおりると稲もお茶も大変なので、暖かくなったからと油断してはいけない、という意味だそうです。

どんなに調子がいい時でもいい気になってはいけないという戒めの言葉です。

掘返す 塊光る 穀雨かな 西山泊雲
(ほりかえす つちくれひかる こくうかな)



塊(つちくれ)とは、土のかたまりのことです。

穀雨の頃は農作業には特に大切な時期、

掘り返した土が雨で光を増す様子が目に浮かびます。

情景： 穀雨の時期、農夫が鍬（くわ）で田畑の土を掘り返している。

掘り返された土の塊が、しっとりとした春の雨（穀雨）を吸って、キラキラと輝いている様子。

意味： 穀雨は「百穀を潤す雨」とされ、種まきに最適な時期。

雨に濡れて光る土の塊に、土地の豊かさや、これからの作物の生育への期待農作業のエネルギーが感じられる一句。

穀雨の頃の、農村の穏やかで前向きな情景が描かれています。